

# 面接

## 面接対策に自信あり

### 個別に徹底指導

無制限

一人ひとりの受験生と向き合い、個別に徹底指導します。抽選や先着順でしか対応できない大手予備校と少人数制の喜治塾との大きな違いのひとつです。

#### 厳しい人物試験

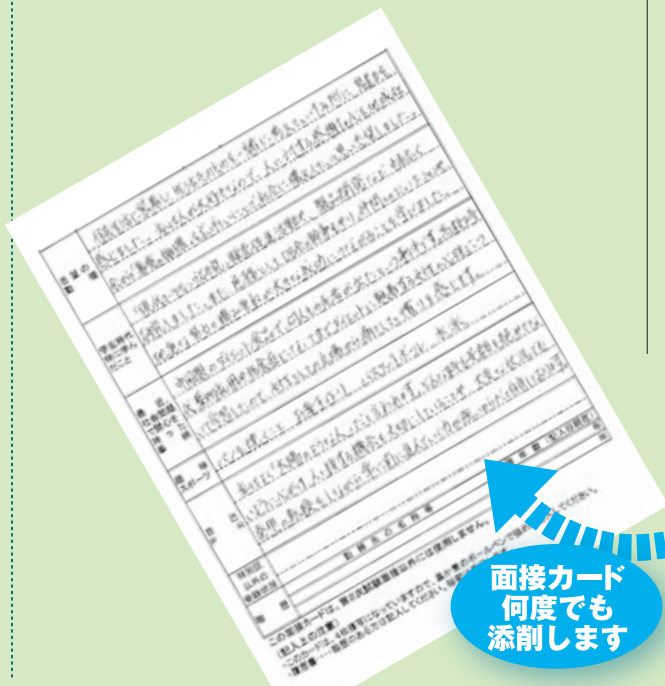
まずは右の採用試験実施状況の表を見てほしい。2次試験（面接、集団討論など）のウェイトがいかに大きいかが目瞭然だろう。択一試験をパスしても、まだ2～4倍の2次試験があるのだ。

2次試験自体が、これだけの厳しい倍率である。それに対応するきちんとした対策をとっておかなければいけないことは言うまでもない。そのためには、面接試験や集団討論が何を問うているのかを知り、対策を立てていかなければならない。

最近の公務員試験では、筆記試験の成績がトップでも最終合格できないケース、逆に面接試験で挽回するケースがある。しっかりと対策をとり、合格を確実なものとする。

#### 面接対策は完全に個別指導

1次試験後は、実際に受験する試験を想定して面接や集団討論の練習、面接カードの添削などを行う。自信をもって本番にのぞめるように練習をする。



■面接試験の倍率 (2011年夏)

	1次試験 受験者数	1次 合格者数	最終 合格者数	面接倍率
都庁I類A	1,390	239	81	3.0
都庁I類B	4,138	1,285	635	2.0
特別区	14,005	3,085	1,724	1.8
千葉県	1,434	207	100	2.1
埼玉県	1,800	529	213	2.5
神奈川県	1,469	598	206	2.9
横浜市	2,792	993	256	3.9

#### 人物試験の種類と対策

### 面接試験の対策

#### 1) 面接試験を知る

面接試験で試されるのは「あなた自身」だ。法律の知識でも、経済の知識でも、現在行われている政策に関する知識でもない。公務員試験の募集要項にも2次試験の内容は、「人物試験」や「人物調査」などと表記されていることからそれが窺がえる。にもかかわらず、受験生の多くは政策の検討を試みたり、人口や施設の数覚えようと一生懸命になりがちだ。塾では、面接試験で求められていることを明確にレクチャーする。

#### 2) 自分自身を知る

「あなた自身のこと」は、あなたにしかわからない。どのマニュアル本を見ても、あなたのことについて書いてあるものはないのだ。自分自身で見つけていくしかない。ただ、あなたがあなた自身のことを知るための方法論を教えることはできる。そして、さらにあなたと一緒にあなた自身に迫る手助けはできる。

講師が、個別に、あなたと一緒に「あなた自身」を分析する。これは「志望動機をどう言えばいいか」「長所はこれでもいいか」というような次元の指導とは全く異なるものだ。模擬面接などを実施すると、その重要さがわかるだろう。

#### 3) 表現する

ほんの何十秒の受け答えの中で自分を表現し、相手に伝えるということは、思っているより大変なことだ。入念な準備が必要となる。表現力は「技術」であり、ここは訓練することができる。徹底して訓練する。また、面接カードの書き方も具体的に指導する。